

公表

## 保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	淡路こども園		
○保護者評価実施期間	2026年2月6日		2026年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年2月6日		2026年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2026年2月6日		2026年2月27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との連携や説明は、事業実施前の打ち合わせや事後の報告・話し合いを丁寧に行っており、本人の理解や必要な支援につなげている。	事業を行った後の子どもの状況を継続して把握するようにし、様子が前向きに変わっているかどうか、保護者とこまめに確認している。	子どもの状況が変わりにくい場合、保護者と確認の上、訪問先施設や関係機関とケース会議を行い、情報共有も含め、課題や目標の見直しをして、より良い協力関係を築いていきたい。
2	訪問先施設が、子どもや保護者対応で困っていたり、悩んでいる事について、訪問先施設や保護者の双方との信頼関係をもとに関係調整や助言をしている。	訪問先施設、保護者(子ども)、事業者の三者の関係性をもとに、ケース会議を定期的に行い、連携して支援をしている。	関係機関も含めてケース会議を行い、地域で協力して相談や支援ができるように信頼関係を築きたい。
3	保護者会や卒園児の親の会を支援し、行事や交流会・勉強会を一緒にする機会を持つことで、親同士が支え合い、学び合う関係がある。	幼児期から成人期にかけて生じる悩みや困りごとについては、事業者が仲立ちとなり、保護者と一緒に話したり情報提供したりするなど、日頃からコミュニケーションを重ね、保護者同士がつながりやすくなるよう意識している。	保護者同士が顔の見える関係を築けるよう、さまざまな交流の方法等について、保護者主体で考えてもらえるよう支援したい。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用希望者に対して、十分に対応できていない。	職員体制や訪問先施設との日程調整が難しい。	職員体制を整え、適切に対応できるように努めたい。
2	保育所等訪問支援計画を作成する際に、訪問先施設の担当者等の意向を十分盛り込んで作成できていない。	訪問先施設の担当者と事前に打ち合わせが十分できておらず、意向を盛り込むことができなかった。	訪問先施設の担当者と連携を取って打合せしたり、話し合いを重ねる中で、顔の見える関係から信頼関係を築いていきたい。
3	事業を実施する際、訪問先の理念や支援方法を尊重して支援するという姿勢が不十分だった。	本事業において、訪問先施設と考え方や視点に違いがあると感じた場合、十分なすり合わせができず、課題が残ることがある。	違いを認めた上で、双方の考えを共有し訪問先施設の担当者との信頼関係を築きながら、相談や助言を行い、子どもにとって適切な支援のあり方を共に検討していきたい。